



2022年9月14日

株式会社海遊館 広報チーム

〒552-0022 大阪市港区海岸通1

TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551

<https://www.kaiyukan.com/>

(担当：萱島、新谷、松村、松元、柿本)

## 高知県にある海遊館の研究所 「以布利センター」が開設25周年を迎えます

海遊館の研究所「大阪海遊館 海洋生物研究所 以布利センター」(高知県土佐清水市、通称：以布利センター)は2022年9月24日に開設25周年を迎えます。

以布利センターは1997年9月24日に、ジンベエザメの生態解明や周辺海域の調査研究、海遊館での飼育展示生物の収集を目的に開設しました。

黒潮海流の接岸する高知県土佐清水市に位置し、現地の大敷組合の方々に協力いただきながら調査研究をおこなっています。

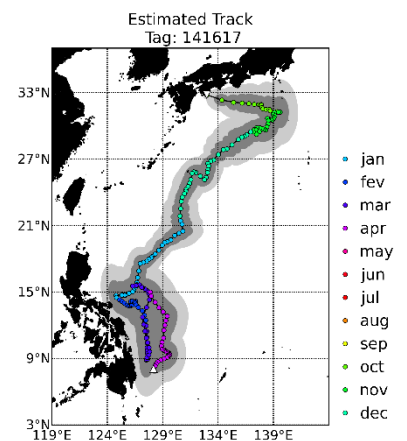


以布利センター内観(第2水槽)

以布利センターは、各種実験設備を備えた「研究管理棟」、大型円形水槽「第一水槽」、検査用プールを併設する大型水槽「第二水槽」の3施設からなります。

これまで、単独・共同様々な調査研究により「イブリカマス」「カイユウセンニンフグ」の日本初確認、「イトマキエイ」「タイワンイトマキエイ」の世界初飼育成功などの結果を発表してきました。

また、ジンベエザメの調査研究においては、小さな記録装置を用いて回遊経路を調査する「バイオロギング」や、健康診断時の採血方法の世界初確立など、まだ生態が詳しく分かっていないジンベエザメの生態解明に尽力しています。



ジンベエザメ回遊経路調査の結果

海遊館と以布利センターはこれからも、生き物たちや周辺海域の調査研究に尽力し、生物多様性や自然環境の保全に尽力してまいります。

【 本件に関する広報連絡先 】

**海遊館広報 06-6576-5529**

## 【 以布利センターについて 】

1997年9月24日、高知県土佐清水市に開設。1990年の海遊館開館以前よりお世話になっている大敷組合の方々にご協力いただきながら、周辺海域やジンベエザメの調査研究、海遊館で飼育展示する生き物の収集などを行っています。

「研究管理棟」「第一水槽」、そして検査用プールを備えた「第二水槽」で、日々の調査研究を行っています。



以布利センター 外観

第一水槽：直径約20m、水深約5m、容量約1,600t

第二水槽：縦約19m、横約31m、水深約5m（検査用プールは縦約8m、横約8m、水深約5m）総水量3,300t

## 【 主な調査研究結果 】

### ① ジンベエザメの回遊経路データの取得に成功

まだまだ不明な点が多いジンベエザメの生態のうち、半年間に及ぶ回遊経路のデータ取得に成功しています。小さな記録装置を用いた回遊経路の研究によって、以布利を出発したジンベエザメは水深1,560mの海域を泳いでいることやフィリピン海域まで回遊していることが判明しました。

### ② 「イブリカマス」「カイユウセンニンフグ」の日本初記録

1998年、高知県以布利地区における海域調査の共同研究にて「イブリカマス」と「カイユウセンニンフグ」を日本初記録し、標準和名を付けました。

### ③ 「イトマキエイ」「タイワンイトマキエイ」の世界初飼育に成功

外洋性の大型エイ、「イトマキエイ」（2008年）と「タイワンイトマキエイ」（2013年）の2種を世界で初めて飼育に成功しました。それぞれ輸送にも成功しており、現在海遊館の「太平洋」水槽ではイトマキエイを世界で唯一飼育展示しています。（海遊館調べ）

### ④ 「ニタリ」の捕食行動を世界で初めて撮影に成功

オナガザメの一種「ニタリ」は長年、捕食行動が定かではありませんでしたが、2008年に海遊館が世界で初めて撮影に成功して明らかになりました。施設近くの生簀にてニタリの飼育にも成功しています。



ニタリ



イトマキエイ

2022年9月25日（日）に海遊館ファンコミュニティ「生き物サロン」の参加者向けに、歴代の以布利センター長2名と、現在センターに赴任中の職員1名によるトークイベントの開催を予定しています。